

地域や来訪者と協働する 白神山地の生態系モニタリング

- 地域ボランティアによる大雪山の高山植物モニタリング
工藤 岳（北海道大学地球環境科学研究所）
- 利用者参加による大雪山の登山道補修とモニタリング
山口 和男（山口カズ技術士事務所）
- 白神山地のブナ林モニタリング調査会の活動
赤田 辰治（弘前大学農学生命科学部）



温暖化に直面する白神岳山頂付近のお花畑

- 2018年10月14日（日）15：00～18：00（14：30開場）
- 弘前大学コラボ弘大 8階 八甲田ホール（入場無料）
- 主催 弘前大学農学生命科学部附属 白神自然環境研究センター
- 問い合わせ 白神自然環境研究センター 石川幸男 0172-39-3708

主催者から

豊かな自然が残されている白神山地はその一部が世界自然遺産に登録され、地球規模の環境変動のモニタリングの場としてユネスコからも重視されています。このため、生態系のモニタリング体制が築かれており、ブナ林モニタリングには地域の方々も参加しています。

白神自然環境研究センターでは、遺産管理に資することも目指してモニタリングを実施しています。こうしたモニタリングなどの一部に地域の皆さんや来訪者が参加できれば、モニタリングがより一層進むとともに、この地域の自然とその現状に理解がより深まり、しかも通常の観光では得られない充実感を得られる可能性があります。さらに、こうした取り組みをツアー化することができれば新たな観光資源となるなど、多方面への波及効果が期待できます。

日本各地では、地域の皆さんや来訪者が調査研究活動に参加する先行事例があることから、本セミナーでは、北海道中央部の大雪山国立公園においてこうした取り組みを行っている方々からその内容をご紹介します。また、白神山地でのブナ林モニタリング活動についてもご報告いただきます。これらの活動実績を参考にしながら、地域の皆さんや来訪者が白神山地でのモニタリングにこれまで以上に参加・協働する意義と、実施するための方策を考えたいと思います。

講演者のプロフィールと講演概要

工藤 岳（東京農工大学卒業、北海道大学大学院環境科学研究科博士課程を修了、学術博士。1994年より同研究科助手、2005年より准教授）

環境省では気候変動が様々な生態系へ及ぼす影響を評価するための基礎データ収集を目的とした「モニタリングサイト1000」プロジェクトを行っています。モニタリングサイトの一つである北海道大雪山では、地域ボランティアによる高山植物のモニタリングが10年以上続けられています。これまでのモニタリングの経緯や得られたデータの解析結果を紹介し、地域ボランティアによるモニタリングの有効性と課題について考えていく材料としたいと思います。



山口和男（慶應義塾大学卒業、同大工学研究科修士課程を修了、オレゴン州立大学林学研究科修士課程に留学。コンサルタント業を経て、2016年4月より山口カズ技術士事務所を開設）

全長300kmにおよぶ大雪山の登山道には管理者不在の区間もあり、さらに近年の異常気象から登山道やその周辺の自然環境が悪化の一途を辿っています。行政による管理には限界があるため、利用者を含む関係者が協力して管理する協働型管理運営体制が進められています。ここではその現状を紹介し、利用者による登山道補修、およびその結果のモニタリングを継続していくことを活動の基本とした民間団体「大雪山・山守隊」を紹介します。



赤田辰治（信州大学卒業、名古屋大学大学院農学研究科博士課程を修了、農学博士。メリーランド大学ポスドクター研究員、1993年より弘前大学准教授）

白神山地は自然遺産としての登録基準の一つ「陸上、淡水、沿岸および海洋生態系と動植物群集の進化と発達において、進行しつつある重要な生態学的、生物学的プロセスを示す顕著な見本であるもの」に適合するとされています。従って、モニタリングを行うことはこの基準によく合致しています。調査会では1999年、核心地域に3つのモニタリングサイトを設置し、以来20年間にわたって活動を続けて来ました。その内容とこれまでの結果を紹介します。



コラボ弘大（創立60周年記念会館）は、弘前市内の文京町キャンパスにあります。

- セミナー当日は日曜日ですので、コラボ弘大正面玄関のみ、ドアが開きます。矢印方向のドアからお入りください。それ以外のドアは施錠されていますので、ご注意ください。
- 遠方からおおいの方は駐車場をご利用いただけます。図の中央の市道から直接お入りください。スペースには限りがございますので、近隣の方はなるべく公共交通機関をご利用ください。